

今年の麦はいつもの通り水分25%以下で収穫開始され、コンバインから4tトラックで乾燥場まで運ばれ、その後はシズオカ300石の乾燥機で15%まで下げ、翌朝アメリカ製の300t貯留ビンに10日間ほど置かれ、出荷の前日には再びシズオカ300石乾燥機に移され、水分を15%から12・5%以下にして20tトレーラーで十勝まで運ばれる。

このように書けば簡単そうに思われるが、この作業で農場収入の70%以上を占めるのだから、自宅PCを2週間以上、開かないくらい毎年神経がピリピリ状態になる。

コンバイン機種選びにワクワク

以前も話したが穂発芽防止効果もある亜リン酸を散布するようになってからは、とりあえず穂発芽による品質低下がなくなったので、20年くらい前から比較するとピリピリ度が明らかに減った。今年の麦は全道的に平年作以上だと聞く。今まで亜リン酸を使っていなかった地域も試験で使い始めたそうだから、北海道の麦の将来は明るいと言えるのだろう。

あともう一言、農林水産省さま、予算配分ありがとうございます。

収穫に使うJDコンバインは15年前にアメリカから購入した。その前

もJD製ではあったが120馬力しかなく、収穫をしていてカッターレイ（もどかしい）状態ではあった。次のコンバインの機種選びは心配よりも、どのくらいの高馬力コンバインになるのかワクワクしていた。

アメリカでは日本的に言う軸流、脱穀部分が前から後ろに一本の棒状になっている最新型が販売されて3年目くらいだった。当初は既存と同じ方式の脱穀部分が左右に広がっている方式にしようかと思ったが、アメリカのJD販売店のボブと話したところ「そんな古い方式のコンバインを買うやつはもういない」と一蹴された。セールスは、まくし立てる様に違いを説明するが、ある不安が脳裏をよぎった。

1980年代初頭に、違う色のメーカーがやはり軸流コンバインを十勝に1台持ち込み、試験が行なわれたが悲惨な結果であった。当時は麦の水分が35%くらいから収穫を開始されるのが普通であった。そこにヨーロッパ最先端の軸流コンバイン

Vol.113 パーフェクト！ JD新型軸流コンバイン



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子ども時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。

が先陣を切ることになったのだが……。刈り始めて100mくらいで緊急停止、内部を見ると小麦がだんご3兄弟になっていた。その後、そのコンバインは水分が20%以下で収穫される小豆収穫専用機になったそうなので、と言う話を十勝・音更の方から聞いていたの、さすがのJDの軸流でも対応は難しいだろうと考えていた。

でもボブは「JDの軸流

オレにも 言わせる！ 北海道長沼発 ヒール・ミヤイの憎まれ口通信

は違う!」と断言する。

それにしても カナダ入国は気分が悪い

では、ということと実際の収穫をアメリカまで見に行くことにした。

ここが小作人根性の持ち主と違うところでしょうね。こちらの収穫、乾燥、出荷が終わるのが8月15日くらいになるが、なんだかんだで日程調整して9月10日になった。その時点でアメリカの麦の収穫は終わり、北のカナダに移った。場所はアルバータ州・カルガリーだ。たまたま82年に従妹の所に農業研修に来ていたA・Cが近くに住んでいるので彼も20年ぶりに会うことにした。

それにしてもカナダ入国は気分が悪い。毎回どうでもいいようなことを聞いてくる、そして最後には必ず向かいの事務所まで再検査する。心の中では「カナダに来たいんじゃない、コンバインを見たいだけだ」と口まて出かかった。私が「何日滞在のスタンプを押すんだ?」と聞いたら「2週間」と答える。「法律は3カ月じゃないの?」と聞き直したら「お前は2週間で十分だ」と言うので「3日で十分だから押し直して」と2週間と押されたスタンプを突き返すと、大概の係員はムツとする。

いいんです。わざと気分を悪くさ

せて満足しているんですから! カルガリーのホテルにはノースダコタから2000kmを自家用車で3日かけてJDセールスマンのボブと奥さんのロイスが待っていた。

翌日、大麦を収穫する計画だったが、少し遅めの時間だと乾燥が進むので11時くらいにカルガリー飛行場から数マイル北東の畑に向かった。カナダ人オーナーの祖先は、1800年代後半にアメリカ・イリノイ州から移住したそう。アメリカ人、カナダ人の祖先の話や、開拓話を聞くと自分の祖父からの北海道開拓と重なる部分があるが、金髪・ブルーアイであることを除けば、生まれた時からイングリッシュを話していたかどうかの違いは、ズ〜っと世界の主流ではない真の勝ち組ではない文化として、やはりズ〜っと尾を引くことになる。

JDの軸流コンバインの 実力は?

収穫が開始された。JDの新型軸流コンバイン360馬力だ。大麦の水分は17%くらいだったが、茎は朝露が残っているのか手で握るとジトツとしていた。さすがに収穫は無理だろうと思ったが、JD軸流コンバインは何の抵抗も感じさせずに収穫した。もう一つの畑は大麦の水分

が25%を軽く超えていたが無理して少しの距離を進ませた。

「パーフェクト!」コンバイン一台お買い上げ決定! びっくりしましたね、選別は良い、実の崩れもなし。

翌日は、20年ぶりにA・Cと会うことになった。カルガリーから車で45分くらいの農場で放牧をやっているが、それだけでは食えないので証券会社のディーラーをメインにしていたが、リーマンショックを機に農業一本にしたらしい。奥さんはオーストラリア人のリサ。そばかすがまだ残っている所がカワイイ。

なんでもA・Cは日本研修の後、オーストラリア農業研修でクイーンズランド娘をゲットしたそう。面白い話もあった。生まれた子供たちはカナダ国籍になるので、アメリカ国境では子供たちはカナダ人だとアメリカのイミグレに言ったら、オーストラリア人のリサはフリーパスでアメリカに入国出来たそうだが、9・11以降はオーストラリア・パスポートの提示をすることになったそう。A・Cの自宅に入るときに階段を直していた職人がいた。リサは「彼もオーストラリア人よ」と言っていたが、その後、彼と……となつてしまつてA・Cと離婚してしまつた。落ち込んでいたので、今度慰めに行こうと思う。

よくやるぞです つまらん意地悪を

北海道への帰路は、カルガリーからシアトルを経由して今はなきノースウエスト航空で成田に向かうことになってた。しかしシアトルの霧がひどく、飛行機の離陸が出来ないことになった。カウンターは小型機なので2つしかない。空いていると思つて並んだカウンターの前には2人しかいないので、10分くらいで飛行機の変更をしてくれると思つたのが大間違いだった。やっと私の番になったのは1時間後、チケットは少し高めだったせいなのか隣の会社のユナイテッド系を利用できると案内され、チケットの裏にエンドースメントのスタンプと係員のサインを持って、隣の会社のカウンターに並ぶと「終了しました」と言われ、ガツカリして再び当初のカウンターの最後尾に並びさらに1時間待った。

当然シアトルからの成田行きは離陸していて、行く必要もないバンクーバーで一泊することになりました。ワザと違う会社のカウンターに行かせる……よくやるんです。つまらん意地悪をカナダ人が! だから同じ金髪・ブルーアイでもアメリカよりもすべてが1/10の貧乏なカナダに魅力を感じません。